

ちょっと読んでみませんか(令和二年正月)

第52話『令和二年今年の言葉』(本源寺副住職 本間健司)

新元号「令和」となって初めての正月を迎えます。

令和二年は、西暦(イエスキリスト生誕年が起点)では2020年。ちなみに、「**仏暦(ぶつれき)**」(お釈迦様が亡くなられてからの年数)では2563年、「**皇紀(こうき)**」(初代神武天皇即位からの年数)では2680年になります。

「**仏暦**」や「**皇紀**」を意識している人は少ないと思いますが、昨年(令和元年)は「**天皇即位の儀**」という歴史的行事をテレビ等で観られた方も多いため、「**天皇陛下**」の歴史・日本の歴史は、2600年以上も続いている」ということ位は、日本人として知っておきたいものです。

さて、今年はまだ、「東京オリンピック」という一大行事も催される大切な一年になるわけですが……
ここで、皆さんに質問です。

令和二年は素晴らしい一年になる、と心から思えますか？

そう聞かれて、「はい!」と即答できる方は羨ましい限りです。
しかし、日々、様々な問題にぶつかったり、また“悪いニュース”を毎日見聞きすることによって、何となく、未来を“悪い方向(悲観的)”に考えてしまっているという方も多いというのが実状ではないでしょうか。

世界的ベストセラーとなった『ファクトフルネス』10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(日経BP社)という本には、ついつい人間が持つてしまう「**ネガティブ(悲観的)本能**」について述べられています。

人間には、動物としての防衛本能から、“**物事の悪い面ばかりに気を取られ、良い面には気付きにくい**”という「**ネガティブ(悲観的)本能**」というものがあるのだそうです。

人を害するような要因は確実に世界から減っているにも関わらず、悪いニュースが増えたと感じ、「世界はどんどん悪くなっている」と思い込んでしまう。皆さんも思い当たることありませんか？

実は、お釈迦様が悟られた「因果(いんが)の法則」によると、「悪くなっていく…」という“悲観的な”「思い(不安)」は、実際に悪い方向(未来)に向かう要因になってしまうというのです。

↳『善い思いを持てば、良い方向にいく。』

悪い思いを持てば、悪い方向にいつてしまう』(善因善果 悪因悪果) ↳

ですから、お釈迦様は、私たちが人生において避けられない様々な「悩み・不安・苦しみ」を乗り越えるためには、その根源として、一人一人の「思い」(心の持ち方)が大切である、と説かれたのです。

「思い」(心の中)は目に見えませんが、私たちはつい、「心の中で思っていること」には無頓着になりがちです。しかし、言葉や行為・雰囲気は「思い」から出るものですから、いずれは様々な形で表に出て影響を与えてしまうのです。

初期經典において、『欲や執着心が強く、他人に施しの出来ない者は、かえって恵まれた生活から遠ざかります。また、嫉妬(しつと)深く、他人の喜びをねたむような者は、人々から慕われたり心が通い合うということがないのです。』と、その一例を示されたお釈迦様は、

悩み・苦しみを乗り越えるために、まずは

しょうし

「正しく思うこと」「正思」

という、ある意味当たり前前のことを「修行」として、私たちに勧めたのです。

さらに、晩年には、『法華經ほけきょう(妙法蓮華經みょうぼうれんげきょう)』において、

「一人の思いが、自分自身に、身の回りに、大自然に、そして、宇宙全体すべての存在に波動となって影響を与える」

という「一念三千(いちねんさんぜん)」の究極真理を明かされました。

さて、新元号となって初めての正月です。

私たちの周りには多くの問題があることは事実ですが、ここで一旦「悲観的(ネガティブ)な思い」をリセットして、お釈迦様が教えてくれた、「因果の法則」・「一念三千の真理」を信じ、「正しく思う」と「正思」の修行を共に実践してみませんか。

一人一人の正しい「思い」・前向きな「思い」は、個々人の問題はもちろんのこと、日本全体に、そして世界全体にも強い影響力となり、明るい未来につながっていくに違いない。私は、そう強く信じたいのです。

今年は、日本でのオリンピック開催という絶好の機会でもあるわけですから。

ついつい、「悲観的な思い」に自分が縛られそうになった時、「**正しく思うこと**」、そして「**思いの力**」を信じて頂ければ幸いです。

それでは、皆様にとって今年が素晴らしい一年になる、と強く「思い」ながら…

合掌 **南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經**